

令和 3 年 6 月 10 日現在

機関番号：13301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13416

研究課題名(和文) Peter Idley写本研究：写本の編集事情を踏まえたテキストの多様性の考察

研究課題名(英文) A Study of Peter Idley's Manuscripts

研究代表者

工藤 義信 (Kudo, Yoshinobu)

金沢大学・外国語教育系・助教

研究者番号：70757674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、15世紀の英語教訓詩、ピーター・イドリー作『息子への教え』を収録した11点の現存写本のうち、とくに顕著なテキスト上の特徴を有する2写本に焦点を当てた。関連の深い他の3写本との比較等を通して、2写本におけるイドリーのテキストの編集上の特徴を分析し、その理由・背景を考察した。一方では、当時の宗教的・政治的状況を背景とした写本編纂者によるテキストの意図的な編集が認められ、他方では、筆耕者による不足部分の追加、制作依頼者による所有物としての写本の意味づけとイドリー教訓詩の収録との関連、写本内の他のテキストとのテーマ上の関連性が浮き彫りとなり、15世紀英語教訓詩の受容の一端が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

主要な学術的意義として、ピーター・イドリー写本研究における新規性が挙げられる。1940年以降、イドリーの教訓詩を収録した写本が新たに複数見つかったが、それらを踏まえた研究は殆ど進展していない。本研究が焦点を当てた写本の一つに大英図書館所蔵本があるが、本研究はこれを1940年以後に発見された写本の一つと比較することでテキストの意図的な編集を明らかにしており、その点で新写本の存在を踏まえた初めての写本比較研究例である。本研究によりイドリー教訓詩の性質と現存するテキストの多様なバージョンへの理解が確実に深まり、中世の写本文化において一作品が変容を遂げて伝わる過程の媒介者の役割が新たな形で認識された。

研究成果の概要(英文)：Of eleven extant manuscripts that contain Peter Idley's Instructions to his Son, this project has focused on two manuscripts to describe characteristic features of Idley's text recorded in them and discuss the causes of and reasons for such features. The project has elucidated that the rearrangements of many parts of Idley's text seen in one manuscript are the result of editing and reflects the compiler's intention to confirm clerical authority, an intention fitting in the larger picture of the fifteenth-century conservative religio-political culture. An examination of the other manuscript has shown the scribes' addition to Idley's poetry to amend what their exemplar lacked, as well as the relationship between the collection's significance as a status symbol for the commissioner and the recording of this particular piece of advice literature.

研究分野：中世英文学

キーワード：テキストの意図的編集 個別の現存写本の特徴 15世紀イングランドの宗教・政治文化 15世紀英語教訓詩 筆耕者による詩行追加 ミセラニー写本 写本制作依頼者の意図・関心 収録テキストの組み合わせ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ピーター・イドリー著英語教訓詩『息子への教え』(1440-50年頃成立)の学術校訂版は、1935年にCharlotte D'Evelyn編集の校訂版として出版された。校訂版出版当時、同教訓詩を収録した15世紀ないし16世紀初頭の写本は、7点が知られていた。编者D'Evelynは、7写本に収録されたイドリーのテキストを互いに比較し、異同を明らかにしている。しかしその後、新たに4つの写本にイドリーの教訓詩が収録されていることが分かった。これにより、たとえば『息子への教え』第二部は1935年当初に知られていたよりはるかに長かったことなど、作品の最終形に関わる知見も更新されている。新たに発見された写本の存在を踏まえ、現存写本同士の間を比較によって、個々のバージョンの特質について新たな知見が得られることが期待できる。さらに、D'Evelynは作品内部の異同だけを分析したが、個々のバージョンの収録のコンテキスト(例えば、他のどのようなテキストとともにその写本に収録されているのか)を吟味すれば、イドリーの教訓詩が受容された文脈を理解するひとつの手掛かりになると期待できる。

### 2. 研究の目的

(1) ピーター・イドリー教訓詩の個々のバージョンの特質について理解を深める。

(2) 個々のバージョンの収録のコンテキストを吟味し、イドリーの教訓詩が受容された文脈について理解を深める手掛かりを得る。

### 3. 研究の方法

(1) 1935年までに知られていた写本同士の比較だけでなく、それ以後に知られるようになった新たな写本との比較を実践し、とくに、編集上の大きな特徴(数詩連にまたがる大きな単位のパッセージの削除、追加、順序変更)が新たに見られるかどうかをみている。新たな特徴が見つかった場合、すでに知られている特徴との関連性を吟味しつつ、それらの特徴が生じた背景(とくに、意図的な編集がみられるかどうか)について考察する。

(2) 現存写本のうち、イドリーの教訓詩以外にも様々なテキストを収録した写本に焦点を当て、収録テキストの組み合わせについての分析に加え、写本の制作環境に関する古写本学的考察を試みる。

### 4. 研究成果

(1) ロンドン大英図書館が所蔵する、1935年に知られていた写本に収録されたイドリー教訓詩について、同じく大英図書館所蔵の、1990年代に新たに見つかった写本のテキストと比較することで、前者の新たな編集上の特徴(パッセージの削除や簡略化)が明らかとなった。これらを既知の編集上の特徴と合わせて吟味すると、多くの編集上の特徴には、聖職者の権威に疑念を生じさせる可能性を含んだパッセージを削除しているという共通点があることがわかり、他の特徴もこの問題意識と関連する編集上の意図から行われたものといえることがわかった。また、誰がこうした編集をしたのかを示す決定的な証拠はないものの、写本制作に携わる関係者の中でも、テキストを転写した筆耕人によるものである可能性が高いことも考察から見えてきた。以上の成果については、2017年の国際学会、2018年の国際ワークショップで口頭発表後、2019年にイギリスの中世英文学分野を代表する学術誌から研究論文として公表されるに至った。本研究成果は、文学作品をときに意図的に変容させて伝えていくテキストの媒介者としての写本編纂者・筆耕人の存在に改めて光を当てるだけでなく、そうした彼らの営みを写本制作年代の宗教的・政治的文脈の中でとらえる視点を示すことによって、中世後期イングランドの教訓文学ないしキリスト教教化文学を取り巻く写本文化に新たなアプローチを切り開く意義があったといえるであろう。

(2) ケンブリッジ大学図書館所蔵の一写本と、ケンブリッジ大学モードリン・コレッジ、ピープス図書館所蔵の一写本が、もとは2点で一冊の本を形成していたが、少なくとも一続きのコレクションとして作られたものであることが、Joni Henryの研究によって2019年に明らかになった。この最新の知見を検証し、またイドリー教訓詩の編集上の特徴について考察したうえで、多様な種類のテキストを収録する「ミセラニー写本」としての2写本の特質について古写本学的考察を試みた。

イドリー教訓詩の編集上の特徴として、イドリーの詩が途中で終わっている箇所に続いて、著者でない者による14の詩連が追加されていることは以前から知られてはいたが、その意義についてはいかなる考察もされてこなかった。本研究は書体および筆跡の分析を進め、追加詩連と、それ以前の詩連は同じ筆耕人グループによって書かれたものである(後の時期の他の人物による付け足しではない)ことを示し、書写作業のための手本のテキストに不足しているものを補うこともまた写本筆耕人のひとつの営みであることを明らかにした。また、

別のイドリー写本のテキストも同じ詩行で終わっていることを指摘し、新写本も含めたイドリー写本同士の関係について再吟味する必要性について指摘した。以上の成果を、追加詩連の転写とともに、2021年3月に研究論文として公表した。

15世紀イングランドの商人が制作依頼し所有したミセラニー写本として、写本内部の装飾から読み取れる商人自身のコレクションへの意味付けとの関連で、イドリーの教訓詩が当該コレクションに含まれていることの意味について考察し、2020年に国内学会で口頭発表した。こうした個々の写本におけるイドリー教訓詩の収録のコンテキストに関する研究は、今後さらなる展開が期待できる。

#### 引用文献

D' Evelyn, Charlotte, ed., *Peter Idley's 'Instructions to his Son'*, Modern Language Association of America Monograph Series, 6 (Boston: Heath, 1935)

Henry, Joni, 'The Fisher Miscellany: Reconstructing a Late Medieval Merchant Family's Book and its Fashionable Hagiography', in *Saints as Intercessors between the Wealthy and the Divine: Art and Hagiography among the Medieval Merchant Classes*, ed. by Emily Kelley and Cynthia Turner Camp (London: Routledge, 2019), pp. 156-76

Kudo, Yoshinobu, 'Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's *Instructions to his Son* in London, British Library, Arundel MS 20', *Medium Ævum*, 88.2 (2019), 265-300

Kudo, Yoshinobu, 'A Transcription of a Non-authorial Addition to Peter Idley's *Instructions to his Son* in Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030', *Studies of Language and Culture*, 25 (2021), 101-14

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Yoshinobu Kudo	4. 巻 25号
2. 論文標題 A Transcription of a Non-authorial Addition to Peter Idley's Instructions to his Son in Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化論叢 (Studies of Language and Culture)	6. 最初と最後の頁 101-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24517/00061565	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Kudo	4. 巻 88.2
2. 論文標題 Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medium Aevum	6. 最初と最後の頁 265-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshinobu Kudo	4. 巻 16号
2. 論文標題 Modernizing the Lesson: A Note on Peter Idley's Instructions to his Son, II. A. 1392-98	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 金沢学院大学紀要 (Journal of Kanazawa Gakuin University)	6. 最初と最後の頁 141-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 工藤 義信
2. 発表標題 中英語文学ミセラニー写本にみる読者の関心、イデオロギー形成、そして教訓的テキストの機能 Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030およびCambridge University Library MS Ee.2.15の新考察
3. 学会等名 西洋中世学会第12回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yoshinobu Kudo
2. 発表標題 Scribal Excisions as a Response to Anticlericalism in Part Two of Peter Idley 's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20
3. 学会等名 International Workshop on Medieval and Early Modern English Literature
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshinobu Kudo
2. 発表標題 London, British Library, Arundel MS 20 as an Early Reception of Idley 's "Instructions to His Son"
3. 学会等名 XVth Biennial Conference of the Early Book Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>2020年12月 日本中世英語英文学会 松浪奨励賞(論文賞)受賞  (上記Medium Aevum 88.2 (2019)掲載論文について)  <a href="http://www.jsmes.jp/blog/back_issue/journal/prize2020/">http://www.jsmes.jp/blog/back_issue/journal/prize2020/</a></p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------